

令和元年度 第3回小平市特別支援教育専門家委員会 会議要録

1 日時

令和2年2月21日（金曜）午後6時から午後8時まで

2 開催場所

福社会館3階 第1集会室

3 出席委員

7名

4 傍聴者

1名

5 配付資料

（資料1）令和元年度第3回小平市特別支援教育専門家委員会 会議要録

（資料2-1）令和元年度特別支援教育取組状況に係る調査結果

（資料2-2）令和元年度特別支援教育取組状況に係る調査結果（別紙1～4）

（資料3）「令和元年度特別支援教育取組状況について」の評価様式

6 次第

（1）報告事項

①市議会（12月）一般質問について

②第2回小平市特別支援教育専門家委員会について

③個別相談について

（2）協議事項

令和元年度小平市教育委員会の特別支援教育の取組状況調査の結果について

（3）その他

各委員から（特別支援教育に関わる情報交換）

【会議の概要】

1 報告事項

(1) 市議会（12月）一般質問について

＜事務局より説明＞（口頭にて説明）

＜質疑応答・意見交換＞

なし

(2) 第2回小平市特別支援教育専門家委員会について

＜事務局より説明＞（資料1）

＜質疑応答・意見交換＞

なし

(3) 個別相談について

＜事務局より説明＞（口頭にて説明）

＜質疑応答・意見交換＞

なし

2 協議事項

令和元年度小平市教育委員会の特別支援教育の取組状況調査の結果について

＜事務局より説明＞（資料2-1、資料2-2）

＜質疑応答・意見交換＞

委員：資料2-1の12ページの通常の学級における個別指導計画の作成件数だが、中学校の作成件数が減少している理由を伺いたい。

事務局：学校生活支援シートの作成件数が減少していないにも関わらず、個別指導計画の作成件数が減少していることについては、私どもも疑問に思っている。今後、分析をしていく。

委員：資料2-1の14ページの校内研修会の実施回数についてだが、学校によって実施回数にバラつきがある。実施回数の多い学校は、どうしてそれができるのか伺いたい。

事務局：11回以上実施の学校には聞き取りをしたことがある。特別支援教室の拠点校だが、短い時間で回数を多くするという工夫をしている。

委員：拠点校と巡回校の差が、教員の理解のバラつきなどの課題につながっている。拠点校はやりやすい環境にあり、巡回校はやりづらい環境にある。そうしたと

ころの課題解決が今後のキーポイントになると思う。

委員：資料2-1の19ページの特別支援教室巡回指導教員による自校支援についてだが、「実施していない」という学校が2校ある。これは大きな課題であると思うが、何かできていない要因があれば伺いたい。

事務局：2校には年度末までに何らかの支援をしていただくように、お願いをしている。

委員：巡回指導教員が、自校支援が職務の一環であることをきちんと理解していないと、なかなか進んでいかないのではないかと。充実を期待する。

委員：巡回指導教員が、自校支援が職務の一環であることをきちんと理解していないと、なかなか進んでいかないのではないかと。充実を期待する。

委員：過去2、3年の数字が出ているものと、出ていないものがある。過去3年ほどの数字があれば傾向を判断し、質問もしやすいかがか。

委員長：今後の資料作成について、経年のデータがあれば提示いただく形で改善していただきたい。

委員：資料2-1の30ページ、保護者、地域への理解啓発だが、ユニバーサルデザインを取り入れた学校の授業の取組について、保護者の方にはどれくらい周知されているか伺いたい。

事務局：教育委員会では、教育委員会だよりで特集を組むなどして発信している。

委員：保護者の方は、通常の学級での授業の工夫や掲示の工夫などをあまりご存知ない。学校では、こうした取組を学校公開などの機会を捉え、積極的にアピールしてよいかと思う。特別支援教育の幅広い取組を知っていただくことにより、特別支援教育に否定的な保護者の考え方も変わっていくのではないかと。

委員：資料2-2の2ページ以降に「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり」について主な回答がまとめられているが、取組をしている学校としていない学校は、どの程度把握しているのか。また、どのようにしてこうした取組を広めていくか伺いたい。

事務局：資料に掲載している取組には、複数の学校からの回答があったものと1校のみから回答があったものが混在している。本調査結果は4月の校長会議で全校に配布する予定である。校内で回覧などし、他の学校の取組を活かしていただきたいと考えている。

委員：他の自治体でシステムトラブルにより昨年の2学期の成績表が出せなかったという話を聞いた。小平市では、データのバックアップ等の取組をされているか伺いたい。

事務局：本日、この場に担当者がいないためお答えできない。なお、当該の自治体でもデータが消えてしまったわけではなく、1月中旬頃に成績表を発行したと聞いている。

委員：ユニバーサルデザインの件だが、取組をできていない要因をつかむ必要があるのではないかと。例えばテニスボールの取組があるが、テニスボールをどこから

調達するかという学校現場の現実的な問題がある。そういったところを掘り下げて分析していくことが重要である。例えば、小平市では取組の1つとして、タイマーの活用が推奨されているが、タイマーの使用法や使用場面といったところは研究が進んでいない。そういったところをやっていかないのと、ユニバーサルデザインを取り入れた授業づくりは充実していかないのではないかな。

事務局：よい取組を広げていくという視点を持っていたが、なぜやっていないのか、できないのかといったことを丁寧に聞き取って、事務局が改善できることは改善していきたい。

3 その他

各委員から情報提供

委員：知的の固定学級を巡回している。今年1年で経験したこととしては、管理職の先生方が固定学級を学校全体のこととして捉え、改善に力を入れている学校があり、固定学級の授業内容や先生方の意識が変わった学校があった。やはり、そのあたりは非常に大事だと改めて感じた

調査の中にもあったが、交流及び共同学習の意識にバラつきがある。どんな児童・生徒がいても、同じような交流しかしていない学校もあれば、児童・生徒のニーズに応じて多様に実施している学校もある。固定学級の先生方の意識だけでなく、学校全体の意識が変わっていく必要があると感じる。

委員：私は小児科医だが、LDのお子さんがよく外来に来る。他区市町村の方もよく来るので、住んでいる地域により、学校の先生方の考え方が違うということを目の当たりにしている。小平市でもLDの子どもへの支援を充実していただきたい。読みと書きに苦手さがある場合に、ゴールをどこに持っていくかは一人ひとりの子どもで異なり、適切なゴールを設定することが必要である。

委員：学校経営協力者会議にも参加したが、学校経営も重要な要素であると感じた。学校にまとまりがあると、不登校の子どもなどが学校につながっていくきっかけを学校が上手につくっていると感じた。学校が、通常の学級の発達障がいや支援の必要な子どもの環境をどうつくっていくかということとその仕組みづくりが重要である。

また、福祉でも支援計画書を作成するが、作ることが主になってしまい、活用ができていないことがある。今後は、計画書の活用や評価に期待したい。

委員：教員の特別支援教育の理解度にはバラつきがあり、学校現場での教育を考えていくときに1つの大きな課題となっている。それを解消する手立ての1つに研修があるが、これまでは特別支援学級の設置校とそうではない学校で、教員の経験差が生まれてきた部分があったかと思う。設置校では、身近に特別支援教育の専門性の高い教員がいて、研修も比較的やりやすい環境にある。人事異動で毎年経験

年数の少ない教員が一定数入ってくる実態もあり、研修を各校で同じように充実させていくということはキーポイントであり、特別支援教室が重要となる。小学校では29年度から導入し2年が経ち、特別支援教室の課題が浮き彫りになりつつあると思う。例えば、各校にヒアリングをするなどして、課題を明確にし充実を図っていただきたい。

委員：1月23日に全国公開研究会を開催し、多くの方に来ていただき、ご意見やご感想をいただいた。外部専門家を活用しアセスメントを行い、個のニーズに応じた指導をするといったことで授業改善を進め、教員全体の質が高まった。

センター校機能の活用についてだが、件数が少ないので、少しでも気になる子どもがいれば活用していただきたい。また、本校を研修会の場としても活用していただきたい。

副籍交流についてだが、4分の1が直接交流、4分の3が間接交流である。直接交流がなかなか増えてこないが、受け入れ側の学校と調整しながら、子どもの実態に合わせて進めていきたい。

委員：特別支援教育の制度の枠組みにうまく入らない子どもがいる。例えば、特別支援教室に入りたいけれども、不登校気味なので難しいといったケースがある。柔軟な運用をするなど、何か手立てはないかと考えている。

学校の特別支援教育コーディネーターという役職を知らない保護者の方が多いので、丁寧な周知が必要かと思う。

委員長：先ほど委員がおっしゃっていたが、これだけ特別支援教育の取組が進んでいるところがあるにも関わらず、現場ではまだまだ進んでいないところが多くある。おそらく、この差は委員の皆様方が感じている以上に深く広いと思う。研修が必要と思う反面、研修しなければならない事項が多い中で、どのように進めていくかが今後の課題であるかと思う。

今年度、就学支援委員会の委員長を務めたが、対象の児童・生徒が増加していること、小平市には情緒障がいの固定学級がないことが課題と感じている。特別支援教室の指導ではおそらく難しく、知的障がいのない子どもがいる。そういった子どもが1番力を伸ばしていける場を提供していくことが必要だと思う。

不登校や家庭に問題を抱えている場合など、福祉的な支援を手厚く行わなければ、特別支援教育の場にすら乗らない子どもが増えてきている。特別支援教育の充実に関わる議論は、福祉的な支援といった視点からも充実させていく必要があると考える。

4 閉会